令和６年度第３回仙台市協働まちづくり推進委員会　議事録

○日　　時：令和７年２月３日（月）15：00～17：00
○場　　所：仙台市市民活動サポートセンター　市民活動シアター
○出席委員：高浦康有委員長、岩間友希副委員長、飯田有紀子委員、岡田彩委員、可野沙織委員、神尾真大郎委員、小林幸司委員、庄子康一委員、春由美委員
○事務局　：市民局次長兼市民活躍推進部長、市民協働推進課長、市民活動推進係長、連携推進係長、他担当職員

○次第

１　開　会

２　議　事

（１）次期「仙台市協働まちづくり推進プラン」の策定について
（２）「仙台市協働まちづくり推進プラン 2021」の進捗状況について
（３）令和６年度「市民活動や協働によるまちづくりに関する意識調査」（市政モニター）結果概要について
（４）若者が活躍するまちづくり事業の今後の展開について

３　その他

４　閉　会

○会議内容

1　開会

［事務局（市民活動推進係長）］

・　委員12名中、本日は９名が参加。出席が過半数を超えており、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例施行規則第４条第２項の規定に基づき、会議は成立する。

・　以降の進行は高浦委員長にお願いしたい。

［高浦委員長］

・　議事録署名人については、出席者の中から五十音順で指名したい。今回は岡田委員にお願いしたい。

（岡田委員　了承）

2　議事

（１）次期「仙台市協働まちづくり推進プラン」の策定について

［事務局（市民協働推進課長）］

・　資料１に基づき説明

［高浦委員長］

・　議事について、質問・意見等はあるか。

・　質問・意見等無いようなので、次の議事へ進行させていただく。

（２）「仙台市協働まちづくり推進プラン 2021」の進捗状況について

（３）令和６年度「市民活動や協働によるまちづくりに関する意識調査」（市政モニター）結果概要について

［事務局（市民協働推進課長）］

・　資料２、３－１、３－２に基づき説明

［小林委員］

・　資料３－２の問５と問６の結果を見比べると、大半の市民は市民活動に関わりたいと思っているが、実際には関わっていない状況にあると見受けられる。一方で資料２では、推進プランに掲載している事業の６割方が「着実に進捗した」と報告があった。ここに、市民意識調査の結果と、市の施策の振り返りとの間にギャップがあると感じた。

・　施策としては進捗しているのに市民が実際に関われていない理由として、活動に関する情報が市民にうまく伝わっていないか、または活動そのものが、市民が参加できるよ

うなものになっていないなどの理由が考えられる。

［高浦委員長］

・　市民活動に関心がありつつも参加ができていないという潜在層を十分に取り込み切れていないのかもしれない。まずはイベント等に参加してもらうことから楽しさを知ってもらい、次第と自分が運営の担い手側になりたくなるような、参加のハードルを下げられるようにできると良いのかと思う。

［小林委員］

・　それと、プランの実績の取りまとめ方について、施策の進捗の評価自体は事務局で判断しているものかと思うが、事業によっては専門性の観点から事務局の判断だけでは難しいものもあるかと思う。当委員会では様々な分野のプロフェッショナルがいるのだから、事業の分野に応じて委員へ評価判断の協力を仰ぐなどしてもよいのではないか。

［事務局（市民協働推進課長）］

・　ご意見のとおり、現行プランに掲載している事業の評価が、市民活動への参画状況とイコールにはならないと捉えている。また、施策の進捗評価と市民意識とのずれについては、一般の方まで事業の認知がされ切れていない事も一つの要因かと思う。
・　次期プランでは、施策をどのように評価するかも含め、今後も委員会でお諮りをしながら検討して参りたい。

［可野委員］

・　資料３－２、問５で「ボランティアの経験がある」という選択肢があるが、具体にどういったボランティアに参加した経験があるかという内容の回答はわかるのか。

［事務局（市民協働推進課長）］

・　自由記述にご自身の活動内容を記載していた方はいたが、設問では確認していない。

［可野委員］

・　私自身、普段学生たちと会話している中で、学生に活動に参加したいと思わせるには、実際に活動に参加した人が何に関心を持ったかを把握することが大切と感じている。
・　問７の結果で「関わるメリット、リターン」を重視している市民もいることから、情報発信をする上では、市民の関心やニーズを把握することが重要だと思う。

［飯田委員］

・　今回の市政モニター調査の回答者が、若者より少し上の世代の方の回答比率が高いこ

とを鑑みると、本調査の結果も参考にはしつつも、別途若者の意向や考えを定点観測する必要があるかと感じた。

・ 情報収集手段に関する設問の選択肢で「各種 SNS」とまとめているが、コロナ禍前には Facebook を使う人が多かったのに対し、コロナ禍以降、若者を中心に Instagram が主流となってきているため、具体に何のサービスを使用しているかが大切かと思う。

・ 既に活動に参加している人とそうでない人とでは、情報の集め方や目に入り方も異なっているはず。ベースとなる情報発信方法はありつつも、情報を届けたい層に応じて適切な発信方法とできるよう、いくつか手段を設けていく必要があるかと思う。

[事務局（市民協働推進課長）]

・ 若者の意見については、当課で若者が活躍するまちづくり事業を実施したり交流会を開くなかで、個別にアンケートや意見聴取を行ってきているところ。

・ 「各種 SNS」というくくり方にしたのは、「SNS」の認識が人によって異なる可能性を考慮し、今回は大きい枠組みでお伺いした。

・ しかし、今後施策を進めていくなかでは、ご意見の通り具体な情報媒体の種別を把握するということも必要かと思うので、その把握方法については別途検討して参りたい。

[岩間副委員長]

・ 私も施策の進捗評価と市民意識とのギャップについては、市民活動に携わっている我々がイメージする「市民活動」を、モニターの方の中には「町内会活動」等に限定して認識している方もいたのではないかと思う。

・ また、先ほどの事務局の説明で「情報発信はしているが伝わっていない」とお話があったが、私がまちづくりスポット仙台で町内会の人などと話をしていると、市の事業や取組を知ってはいる人は少なくない。

・ 活動に個人として参加している方と、団体の運営に携わっている方とでは、認知しやすい情報や、探している情報が違うのではないかと思う。また、市民の方まであまり施策が届いていないことはこの調査結果でわかったけど、団体の運営をしている方にも届いていないのか。

・ そのような実態を確認するために、団体を対象とした調査も有効かと思うがいかがか。

[事務局（市民協働推進課長）]

・ 団体向けの調査に関しては、令和 5 年度に宮城県が行った調査結果もあることから、現在事務局で行う予定はしていない。県の調査結果を引用しながら分析する予定。

[神尾委員]

・ 以前、当委員会でプロボノの認知に課題があるとのことだったが、資料３－２の問６か

ら、プロボノに対してのニーズそのものはあることがうかがえた。

- また問 11 で、時間の拘束感を気にしている回答が多いことから、活動に関わることによる負担感を懸念している様子も見受けられる。最初はイベントへの参加からスタートして、関心が湧いてきたら運営側に参加できるような流れを整えることも有効なのではないかと思う。
- また、「どこに情報があるのかわからない」といった声があることが多いが、実際には情報はあるにも関わらず、受け手側が情報を受用するためのアンテナが立っていない可能性もあると思う。自分が活動に参画することで、何らかの変化をもたらせると思えることも必要なのだろう。
- また、現行プランでは 80 近い事業の進捗管理をしているが、それら事業全体を以て何を目指していくのか、といった視点が今は欠けているのかもしれない。個別事業の評価ではなく、市民協働の目的下での理想のビジョンを設け、どんな社会変化があったらそのビジョンに達せるのか、という観点のもと考えられるような構造にできると、事業それぞれの先に待つわくわくするような未来や効果も描いていけるのではないかと思う。

［春委員］

- 情報の入手については、たとえ情報があっても、情報の受け手が目にした瞬間に必要と感じていなければ目に留まらずにスルーしてしまうこともあるので、情報そのものが本当に足りていないのかというと、そうとも言い切れないと思う。
- 私の経験では、この種の調査で「ボランティアをやりたいか・やりたくないか」と尋ねると、「やりたい」が「時間が無い」「機会があればやりたい」と答える人が非常に多い。日本人は 60～70％の人がやっていると周りにあわせてやるようになる、といったことを聞いたことがあるので、そういった環境を作れると良いのかもしれない。
- 社会福祉協議会では、ボランティア活動を「課題解決」としてだけでなく、活動の先にわくわくすることがあるように企画することを心掛けている。その「わくわくすること」は世代ごとでも違う。今後は仙台市でも「どこにターゲットを設定していくのか」焦点を絞る必要もあるかと思う。

［岡田委員］

- 資料２と資料３間のギャップを見て、活動に関わる意欲が非常に高かったり、深く活動に関わっていきたいと思っている人を受け止めるための事業はある一方で、活動をやりたい・関わりたいとは思っているけどアクションには移せていない人を受け止められていない印象を受けた。
- 回答では「インセンティブ」「メリット」「エサ」といったフレーズが挙げられており、「お手軽でメリットのある活動」がキーワードではないかと感じた。
- 「課題が何かわからない」という回答もあるが、「社会を良くしたい」「社会課題を解決

したい」等以外の、別な動機で活動に参加したいと考えている層もいると思う。これまでの「公共のため」「社会のため」の市民活動という枠組みを一度取っ払わないといけない時期にきているように感じる。

・ 例えば、実際に私のラジオ番組で、NPOでボランティア体験をした高校生に聞いたことがあるが、その方の話からは、学生時代にコロナを経験している世代だからか、リアル体験を求めて「楽しいこと」「面白いこと」を重視していた印象を受けた。

・ 「社会をよくしたい」という前提がない層をいかに動かすか、といった視点も必要だと思う。

［庄子委員］

・ 問6や問16の設問はもっと踏み込んで問いてもよかったのではないかと感じた。例えば問6は「ボランティア」を具体的な選択肢を提示しても良かったと思う。また、年代別のボランティア経験の有無などがわかると、意外と若者も学生時代にボランティア経験のある人が多い等の情報も得られるのではないだろうか。

［事務局（市民協働推進課長）］

・ 今回の報告は速報として単純集計の結果のみだが、次年度の委員会で本格的に次期プランのポイントを検討いただく際には、クロス集計の結果もお伝えするする予定。

・ プランのターゲットをどこに向けていくかについては、なかなかプランのような全体像を策定するようなものにおいて、特定の年代だけにフォーカスをあてるというやり方は行政としては難しい。個別の事業であれば比較的ターゲットを絞ることも可能かと考えているため、そのあたりイメージをしながら策定して参りたいと考えている。

議事（4）若者が活躍するまちづくり事業の今後の展開について

［小林委員］

・ やはり若者自身のニーズの把握、情報発信が必要かと思う。ニーズの把握については、若者の意見を継続して少しずつでも聞いていける取組が必要だと思う。

・ 各若者事業の参加者にアンケートをとるなどして、常に生の声でデータをとるべきなのではないだろうか。

［高浦委員長］

・ 是非、次年度新規事業である「若者フォーラム」（ワークショップ）も活用しながら、それらの意見が得られると良い。

・ 私自身、「仙台若者 SDGsアワード」を非常に良い取り組みだとは思っているが、現在YouTubeに掲載されている動画は4時間程のかなり長時間の尺がある。再生回数も700

回程。提案だが、各応募団体に 15～30 秒ほどの尺で PR 動画をエントリーしてもらうのも良いのではないだろうか。

［神尾委員］

- 「仙台まちづくり若者ラボ」のような取り組みは期間に定めがあるかと思う。ただ、市民活動の多くは期間が定められているものではなく、やりたいときにやるものかと思う。
- せっかくサポセンのような常設の施設もあることなので、活動をやりたいと思い立ったらいつでも活動に参画できるようなきっかけとできるように施設が後押しできる体制を強化するなど、幅広に地域資源を活用できるとよい。
- また、私の配偶者は外国籍だが、そういった外国人の存在もある種、若者の属性の一つであるし、そういった声をどう取り込んでいけるのかといった点の検討も必要かと思う。

［岩間副委員長］

- 資料４別紙 p. ３に「ユースチャレンジ！コラボプロジェクト」の事業展開として、テーマ数の増を挙げているが、これが非常に大事なのではないかと思う。
- どうしても若者は自分に「メリットがあるか」「新しいことをできるか」ということに惹かれやすい。したがって、完全に若者側に裁量を任せてしまうと活動に偏りが出てきてしまいがちである。地域パトロールとか、必要なことではあっても問題解決の期限が明確にされていないものだったり、自分ごとにすることが難しい分野はどうしても手薄になり、そういった分野の活動への若者の参画がないとそれらの活動に携わっている人から不公平感を抱かれるかもしれない。
- 予めこちらでテーマを設定してあげることで、若者がまんべんなく活動に関われるような仕組みはつくっていけるし、ただ若者だけを応援するのではなく、そのテーマで活動している既存の活動主体も含めて応援できるのではないかと思う。

［飯田委員］

- 効率的に若者がどういった意向であるかといった点を定点観測することが必要だと思う。
- 現状、多様な若者事業を仙台市で実施しているかと思うが、個別のイベント開催の都度、主催者ごとに個別にアンケートを実施していることと思う。
- 市民局が舵をきるなどして共通の質問項目を何か一つ設けることにより、たとえ事業を跨いでアンケートを実施した場合でも若者の意向を定点観測的に把握できるような体制とするのはいかがか。
- そのデータを集めたのち、結果を庁内に共有することも有効な手立てだと考えられる。

3　その他

［高浦委員長］

・では、最後に「３．その他」について、事務局からは特にないようだが、皆さんから何かあるか。

（特になし）

［事務局（市民活動推進係長）］

・本日の委員会はこれにて終了とさせていただく。

―了―

〈議事録署名人〉

［委員長］高浦康有

［署名人］岡田彩